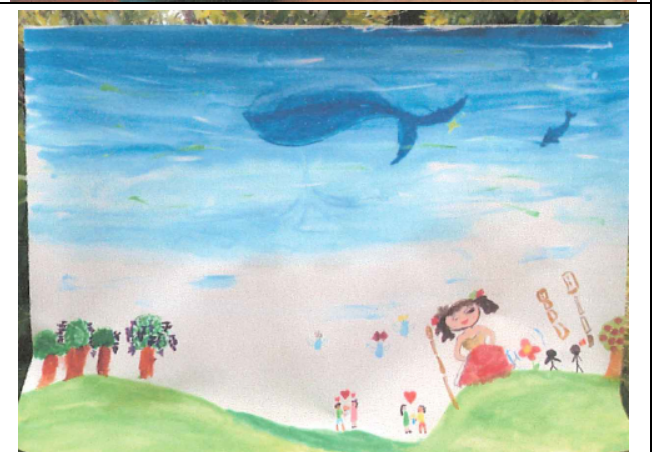
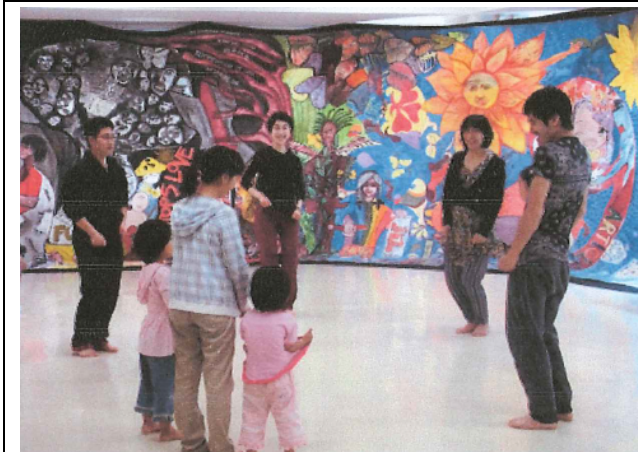


平成 26 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	ボーンフリーアートJapan
活動テーマ	福島キッズ・アートワークショップ プロジェクト



福島県郡山市、福島市等8カ所で子どもや保護者100名とダンスや造作、絵を描く取り組みを行いました。ゲーム感覚でダンスで体をほぐした後、参加者に好きな色を選んでもらって、その色から想起する「豊かさ」を描いてもらいます。ある男の子は「東京オリンピックのときテニス選手になっている自分の姿」を、ある女の子は「今は汚してしまった海をきれいにして、みんなで泳ぐ様子」を、あるおばあちゃんは「孫の●ちゃんが、朝元気にお出かけする姿」を描いてくれました。『豊か』、と一言と言っても本当に多種多様な豊かさがあります。

その後、地球上の不平等な状況を伝えます。学校に行けず働くインドの子、原発のゴミで作られた劣化ウラン弾によって病気になったイラクの子、福島のこと…。みんなが豊かに幸せに生きられる社会について話し合いながら、大きな絵を仕上げます。多くの子どもたちは自分の意見を伝える機会を経験したことはありませんが、アートを交えると、思いを素直に出しやすいようです。あるお母さんは「放射能の意識の違いで周囲から孤立してしまった」と人と人との間にある壁を描いてくれました。

今、被災3県の3割の子ども達うつや不安など深刻な心の問題を抱えているといわれています。(2014年厚生労働省調査)地域では鼻血が出る出ない、避難するしない、補償金をもらうもらわないなど様々な差異が人々を分断しています。

このプロジェクトを通じて、誰もがアーティストになりそれぞれ違いや不安をそのまま受けとめ、心を開きつなぐ機会を提供しました。参加者は、上手い下手ではなく、子ども時代どろんこ遊びをしたような自由な感覚をアートで取り戻し、お互いを理解する機会となりました。